

心室中隔欠損症の1例を代表例として供覧した。いずれも2回繰り返し撮影することにより有意な情報をうることができた。また心のう液貯溜の1例では ^{99m}Tc スズコロイドを用いたRI血管造影では肝の輪郭が明瞭で心血液プールと肝との境界が $^{99m}\text{TcO}_4^-$ による場合より明らかで本症の診断に適していた。

本法の特徴は約15分の間隔で繰り返し検査ができ、2部位または2方向撮影を行なえることである。その他第2回撮影時肝の放射能を指標として、位置決めが容易である。心のう液貯溜の描出が $^{99m}\text{TcO}_4^-$ よりすぐれているなどの特徴がある。肝の推定放射線量は ^{99m}Tc コロイド10mCi当り4.7radsで、これは ^{131}I コロイド130 μCi による肝の被曝線量に相当し、本法は日常検査として実施しうるものである。

質問： 飯尾 正宏（都養育院）

$^{99m}\text{TcO}_4^-$ によるRIアンギオグラフィーでは、しばしば鎖骨窩静脈、腋下に ^{99m}Tc の“banging”がおこりますがこれは ^{99m}Tc の漏出と考えられます。もし ^{99m}Tc コロイドでこのようなことがなくなれば、これも新しい利点となると思いますか？

回答： 佐々木康人（東大 第2内科）

^{99m}Tc パーテクネートによるRI心血管造影に当りご指摘の通り鎖骨下静脈、または腋窩静脈にhung upすることのあることを経験している。これは左肘静脈注入時に著明で右肘静脈注入の場合には少ないので我々は右肘静脈注入をルーチンにしている。 ^{99m}Tc スズコロイドと ^{99m}Tc パーテクネートについてこの点について特に比較検討は行っていない。

5. レゾマット ETR による甲状腺機能検査

内山 暁, 寛 弘毅, 館野 元男,
川名 正直, 松浦 康彦, 国安 芳夫,
有馬 昭, 明妻 人夫
(千葉大医 放射線医学教室)

現在甲状腺機能検査の一つとして Competitive protein binding analysis による血中 T_4 の測定値、および TBG 結合能を指標とする $^{131}\text{I}-\text{T}_3$ テスト測定値から free thyroxin index, すなわちいわゆる T_7 値を計算する方法が普及しているが、一回の連続する操作でこの free thyroxin index に相当する effective thyroxin ratio (ETR) を測定するレゾマット ETR キットを使

用したので、その測定値がよく臨床所見を反映しているかどうか、従来の $^{131}\text{I}-\text{T}_3$ 値や T_4 値、また T_7 値とよく相関しているかどうか、更にはこの ETR 値を検査に加えるとどのような利点があるかについての検討を行なった。方法はレゾマット ETR キットに指示された方法に従い、患者血清 1.1 ml を用いた。症例は甲状腺機能低下症16例、機能正常86例、機能亢進症37例、機能正常妊婦6例の合計145例である。これらの臨床診断は症状および触診所見を中心に基礎代謝、 ^{131}I 甲状腺摂取率、 $^{131}\text{I}-\text{T}_3$ テスト、 T_4 テスト、血沈値、サイロイドテスト、頸部 X 線撮影などを総合して判定し、その他の甲状腺疾患を除外した。結果は、ETR 値は T_7 値と同様に臨床的にみた甲状腺機能をよく反映しており、よい検査法であるが、甲状腺機能正常と機能亢進症との境界域に T_7 値にくらべて重なりがやや多くみられた。ETR 値は低下症が0.77~0.88、正常が0.88~1.31、亢進症が1.12~1.73に分布している。機能正常妊婦は0.89~0.94で正常域中で下限近くに分布している。ETR 値と $^{131}\text{I}-\text{T}_3$ 値との間には正の一次相関がみられ、ETR 値と T_4 値の間も同様であるが、ETR 値と T_7 値とは二次相関を示すようである。この ETR 値と T_7 値との相関図では、低下症、正常、亢進症のそれぞれが群塊をなして分れ、ETR 値、 T_7 値各々が境界線を引くよりも ETR 値の適当な点を座標中心とした円弧状の境界線を想定する方がより明確に区分できるようである。すなわち従来の $^{131}\text{I}-\text{T}_3$ 、 T_4 値から T_7 値を出す検査に更にこの ETR の測定を加えると、 T_7 値が境界域にある症例をこの相関図から、あるいは $\sqrt{x^2+y^2}$ 値から群塊のどちらかに判定することが可能であろう。

6. Radioimmunoassay による Au 抗原の測定

内科 筒井 一哉
放射線科 渡辺 清次
(県立ガンセンター新潟病院)

ダイナボット RI 研究所のオースリアー125キットを使用し、基礎的検討を行なった。

Au 抗原陽性、陰性を判定する Cut off level の決定法を実際にチェックしてみた。栗島離島検診のさい受診した人で肝疾患、輸血の既往がなく、IA 法で陰性例66名について統計処理した。度数66、平均値 238 cpm, S.